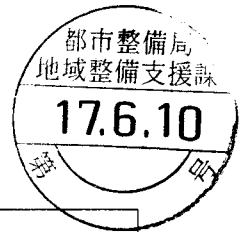


ヨコハマ市民まち普請事業

第1次整備提案書



1 整備提案の概要

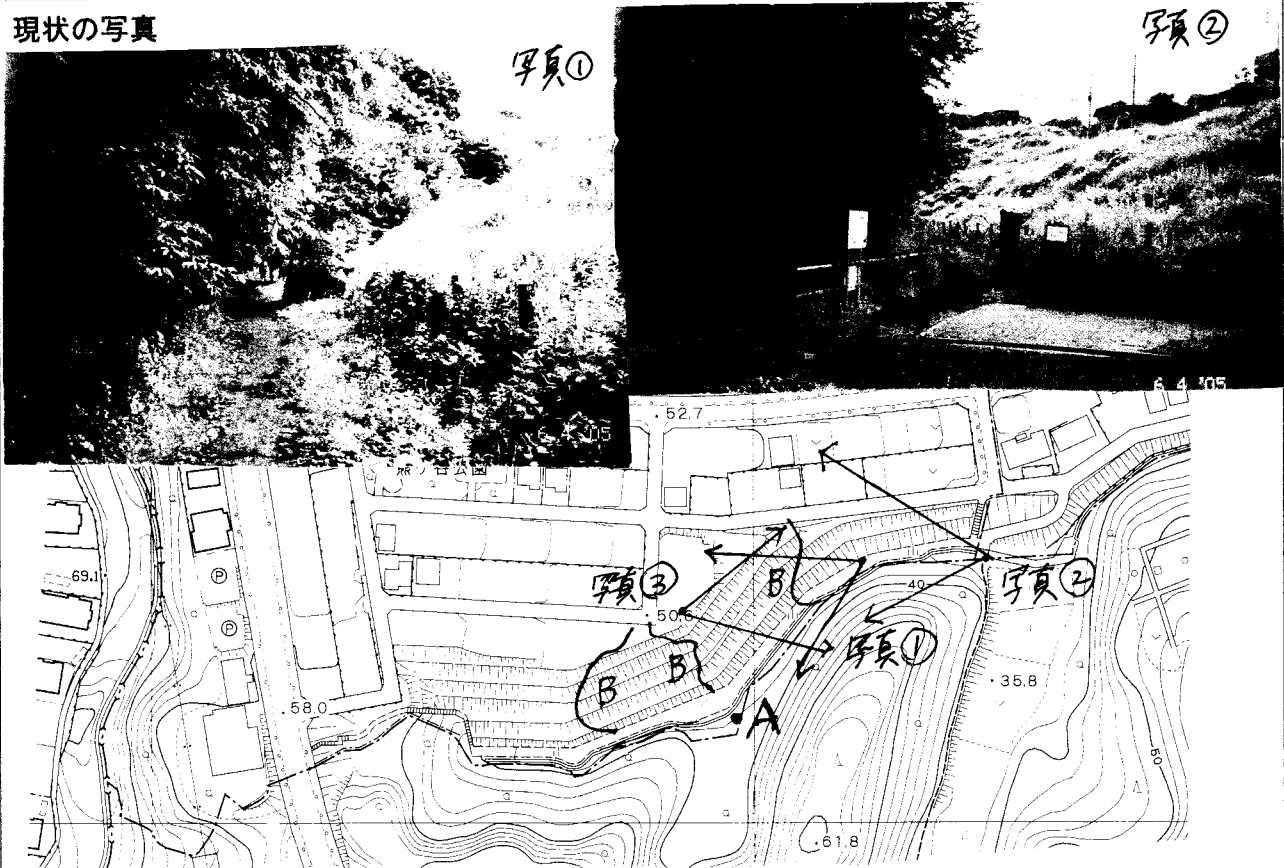
<p>整備提案名</p>	<p>熊ヶ谷 自然観察の道普請</p>
<p>整備提案の概要 (なにをどのように整備するのか簡潔にお書き下さい)</p>	<p>熊ヶ谷小川アメニティー周辺に自然観察の道を整備する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然観察のための「カブトムシの観察小屋」の設置 2. 小川アメニティーの途中から奈良三丁目の道路との間に、自然散策のための斜面緑道の整備 (道普請)。3ルート検討中
<p>整備箇所の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住所 ・ 面積(わかれば) ・ 周辺の地図があれば張り込んでください <p>注1)</p>	<p>・ 住所 横浜市青葉区奈良三丁目 と横浜市恩田町との境 熊ヶ谷小川アメニティー周辺</p> <p>・ 地図</p> <p>「カブトムシの観察小屋」 A地点 (アメニティーの中間地点) 「自然観察の斜面緑道3ルート」 B地点</p>

<p>整備の動機や背景</p>	<p>青葉区の西部、奈良町（一丁目から五丁目）は、住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）が、横浜市の「21世紀プラン」の一環として「地区計画制度」を導入して良好な住環境を創出・保全して出来た新しい街である。隣接地の恩田町には、農家の方々の努力により横浜の原風景である谷戸（里山）が残っており、横浜市は、市民の森や緑地保全地区としての保全を計画している。市街地の境には「熊ヶ谷小川アメニティー」が整備されているが、それと街並との緩衝地帯（バッファゾーン）に、緑の斜面緑地がある。小川アメニティー周辺は自然観察の適地なので、市民が身近な自然環境を大切にすよう、観察施設や散策しやすい遊歩道を整備したい。</p>
<p>地域ニーズや課題</p>	<p>奈良三丁目の南部にある「熊ヶ谷小川アメニティー」は散策道として整備され、日常的に「熊ヶ谷小川アメニティー水辺愛護会」により清掃等の活動が行われているが、子ども達が豊かな自然を実感する為に、さらに親しみやすく、自然を学習する施設を小川アメニティー内に設置することを希望したい。ホタルやホトケドジョウ等もすんでいるが、カブトムシの観察小屋が欲しいとの希望があったのでそれを象徴の生き物として取り上げた。</p> <p>また、全長250メートルの小川アメニティーのせせらぎ浴いの道は、一度歩き始めると、谷戸の上の道に途中で上がるルートが無いので、斜面緑地に緑の散策路を道普請し、複数の散策ルートを整備したいとの声も上がっている。しかしながら、この土地には現在地下室マンションが計画されており、緩衝地帯（バッファゾーン）の存在が危ぶまれている。開発と自然との調和を目指して、開発者の理解を得て自然の観察の道の設置を実現したい。</p>

2 具体的な整備提案の内容

現況の様子を写真の張り込み等で示すとともに、具体的な整備提案の内容を文章やイメージスケッチ等でお書きください。 注1)

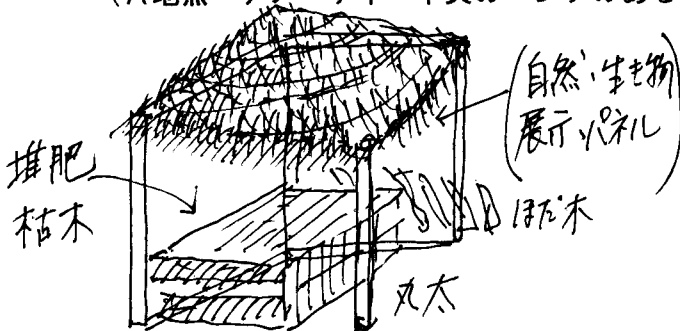
現状の写真



1. 自然観察のための「カブトムシの観察小屋」の設置

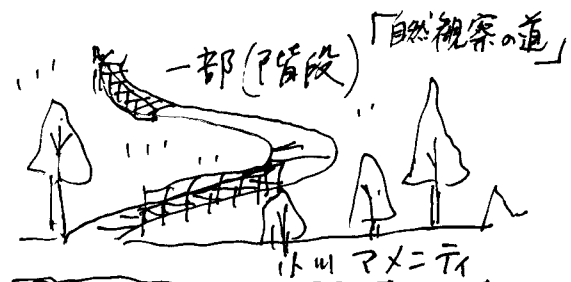
(A地点 アメニティー中央のベンチのあるところの南側・日陰)

(A地点)



2. 自然散策のための斜面緑道の整備 (道普請)

写真③ (B地点 3ルート検討中)



概算整備費： 600万円 (参考)

3 整備提案の効果について

<p>整備されたものがどのような人たちに利用され、地域でどのように役立つと考えますか？</p>	<p>近隣の人にとって、新しい散策の緑道が出来ればより自然が身近になる。また、奈良町の人ばかりでなく、横浜市北部、東京都町田市の人達の自然観察や健康のための散策路として、広く利用されることが想定される。特に子ども達やお年寄りの人達に人気が出るであろう。</p> <p>鶴見川流域のお勤めルートとして、水と緑、さらに歴史（熊ヶ谷横穴墓など）豊かな生き物、横浜の原風景の谷戸（里山）、景観を楽しむ場所として、市民に親しまれることが期待できる。</p>
---	---

4 整備提案の実現性について

<p>整備箇所の地権者や建物所有者、地域組織（町内会・自治会等）への周知状況をお書き下さい。</p>	<p>まだ、アイデアの段階であり、地権者（アメニティー部分は横浜市環境創造局、斜面地部分は都市再生機構）には話をしていない。自治会は賛成してくれると思われる。関係者は、緩衝地帯（バッファゾーン）の重要性について理解してもらえるものと期待している。</p> <p>なお地権者にはコンテスト応募したことを事前に連絡する。</p>
<p>整備提案を実現するために既に提案グループが持っている資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？</p> <p>注2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト・・・自然環境を保全したいと言う熱意は誰にも負けない。メンバーの所属している水辺愛護会、ボランティア団体、自治会等の協力が得られる。 ・ モノ・・・なし。 ・ カネ・・・なし。これから寄付を集める。
<p>実現のために、もっと強化したいあるいは、新たに欲しい資源（ヒト、モノ、カネ）は何ですか？</p> <p>注3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト・・・地権者の了承を得たい。横浜市・青葉区の協力を得たい。カブトムシの育成ノウハウ（専門家に2回ぐらい来てもらいたい。）斜面緑道の石器ノウハウ（専門家に2回ぐらい来てもらいたい。） ・ モノ・・・どの程度必要か現在は不明 ・ カネ・・・地域での募金活動を検討したい。
<p>施設整備や維持管理について、提案グループや地域住民等がどのように関わろうと考えていますか？</p>	<p>「熊ヶ谷アメニティー水辺愛護会」「恩田の谷戸ファンクラブ」「奈良三丁目まちづくりの会」などのボランティア団体、と自治会とが連携しながら、また役割分担しながら、「カブトムシの観察小屋」や「自然散策のための斜面緑道」のお世話（維持補修・清掃など）を行う。また、これらの施設を利用して自然観察会などを実施する。</p> <p>これらの活動を通じて、愛護会などの活動の活性化を図ることが期待できる。</p>

5 特にPRしたい点

<p>提案内容や実施体制等について、特にPRしたい点があればお書き下さい。</p>	<p>自分達の住んでいる街の環境を、自らのアイデアと汗で良好にしていくことは、これからのまちづくりにとって大切なことである。このときに、既存の自治会や愛護会ばかりでなく、ボランティア団体とも連携を取りながら進めることは意義がある。また、地下室マンションの建設計画がある中で、自然環境との調和という難しい課題に挑戦していきたい。</p>
---	---

6 事業スケジュール

1次コンテスト以降、提案の実現に向けて、提案グループが取り組むことについて、事業完了までご記入ください。

	取 り 組 み 内 容 (合意形成、第2次整備提案書づくりなど)
7月	メンバーで打ち合わせ 1次コンテスト
8月	自然散策のための斜面緑道の整備ワークショップ (第1回)
9月	自然散策のための斜面緑道の整備ワークショップ (第2回) カブトムシの観察小屋ワークショップ (第1回) 地権者 (都市再生機構など) への説明会
10月	カブトムシの観察小屋ワークショップ (第2回) 地権者 (環境創造局など) への説明会
11月	第2次整備提案書づくり 第2次整備提案書提出
12月	2次コンテスト
2次コンテスト以降 (設計期間、整備助成金交付申請時期、着手時期、工事期間、完了時期) 設計期間・・・平成18年1月～2月 整備助成金交付申請時期・・・平成18年2月 着手時期・・・平成18年2月 工事期間・・・平成18年2月～3月 完了時期・・・平成18年3月末 (施工内容によっては、若干遅れる可能性がある。)	